



BESSだより

Bangladesh Education Support Society

創刊号

2010. 3. 15

発行： Bangladesh Education Support Society

支店の会 事務局

H21年12月に会員2名が Bangladesh の BSDP スクールに行ってきました。



BSDP スクールの子どもたちと校長先生のビンドウ氏と共に (2009. 12. 22)



子どもたちの瞳はきらきら光っている。



学校に行かないで料理をしたり、妹や弟の面倒を見ている。



近くの川は大切な生活の場。沐浴したり洗濯をしたりする。

ご 挨拶

代 表 森 崎 芳 子

3月になり、春寒ゆるむ頃となりました。皆様お元気でお過ごしでしょうか。

「Bangladesh Education Support Association」を昨年8月に立ち上げ、半年が過ぎました。おかげ様で、会員数は21名となり、温かいご寄付やご支援もいただきながら歩んで参りました。

昨年の暮れ12月には、会員2名がBangladeshを訪ね、支援校であるBSDPスクールの現状把握をしたり、支援金や皆様からいただきました中古の鉛筆、色鉛筆、消しゴム、ノートなどの文具を届けて参りました。お渡しできた支援金は約40000円と、まだ多くはありませんが、Bangladeshにとっては貴重な費用となり、文具、英語の教科書など買い、子供たちに与えられました。

この支援を進めるにあたり、JUAAB（日本大学卒業生同窓会）の会長であられるDr. モアゼムホセイン・営子様ご夫妻に中に入らせていただき、大変お世話になっておりますことをご報告いたします。そして、JUAABにも支援していただき、おもに縫製訓練をしてもらっています。

BESSとBSDPとJUAABが協力して、この学校が自立を目指し、発展していくことを願っています。字も読めない、計算もできない子どもや人たちが多いこのスラム街で、まず読み書きや計算ができるようにし、ミシンなどの技術を身につけていくことは大変重要なことと思います。

これからも、皆様方の温かいご支援を切にお願い申し上げます。

BESSに入会して

副代表 山 田 元 子

世界の中には、貧しくて満足に食べられない子どもや、学校へ行きたくても行くことができない子どもがまだまだたくさんいることを知ってはいましたが、自分にとっては遠い話のように思っていました。新聞などで目にする援助活動をしている人たちの話題も、関心はありましたが、特別な人たちの話だと思っていました。

そんな私でしたが、BESSの会に入会し、こうした活動にかかわる機会をもつことになりました。まだまだ知らないことばかりで自分の進む方向も定まりませんが、Bangladeshのことや援助活動をしている人たちのことを、少しずつ知っていくうちに、どんなに小さなことでも何かをすることがとても大切なことではないかと思うようになりました。以前の私は、自分が少しくらい何かをしても何の役にも立たないと思っていましたが、今はほんの少しでも誰かが何かをするということが大切なことなのだと思います。

BESSの会との出会いに感謝し、自分にできることで小さな活動を積み重ね、支援の輪を広げていきたいと思っています。

Dear friends

Thank you very much to all of BESS members for help our school.

We are fine . BSDP School's activities are running well.

BESS gave me 400\$ so in my country taka 27200TK last December. 1st time 330 students were given Bangla, English , Math note books and ball pens and wood pencils purpose expenditure 15960 Tk . The students of 4th and 5th grade were given English and Bangla grammar books for 12000Tk .

Now I send a picture that students could get stationery .

BSDP (Banguradesh Slum Development Program) is a small and local NGO working at slum area 45 thousand people live in this slum. BSDP is working for children and women rights .

Slum women felt that children need education , so they asked to me , please start education program for our children. Then I started BSDP model primary school at 1/1/1993.

Now this year 330 student study and 5 teachers in this school.

This slum people live hand to mouth. BSDP is working permanent in this slum area.

I request all BESS member, please come to my office and visit school and other program
Thank you very much .

With best regards Md.Nazibar Rhman Bindu



親愛なるBESS会員の皆様

BSDP スクール校長 ナジバル ラフマン ビンドゥ

BESS の会員の皆様が私たちの学校をサポートしてくださり、感謝申し上げます。

私たちは皆元気です。BSDP スクールの活動はうまくいっています。

BESSの会は12月に400\$、タカにすると27200TKいただきました。最初に、330人の生徒に、国語と英語と算数のノートとボールペンと鉛筆を渡し、15960TK使います。そして、4年生と5年生に英語と国語の文法の教科書を買って12000TK使います。私は子どもたちに渡したその写真を送ります。

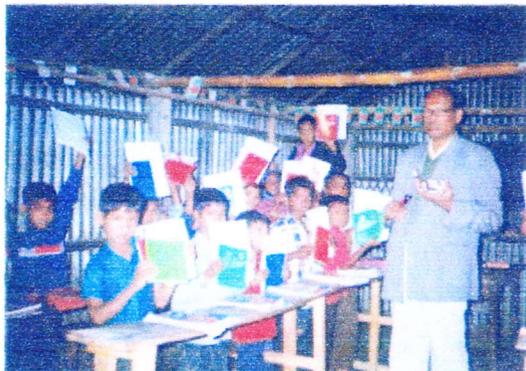
BSDPは45000人が住むスラム街にある小さな地方のNGOです。BSDPは子どもたちや婦人の権利のために活動しています。スラム街の女性たちは子供に教育が必要であると感じて、私に、子どもたちのために学校をスタートするように頼みました。それで私は、BSDPの小学校を1993年1月1日にスタートさせたのです。

今年度(2010年1月~12月)は、学校の生徒は330人で、先生は5人です。

このスラムの人は、食べることで精いっぱいです。BSDPはずっとこのスラムで活動します。

すべてのBESSの会員の皆様、どうぞ私の事務所や、学校に来てください。お待ちしております。

いつもありがとうございます。



BESSの支援金で、ノートや教科書などの文具が子どもたちに与えられた。



BSDPの会員の女性たちの集まり

あまりにもちがいすぎて

—バン格拉デシュ旅行紀—

会 計 佐 竹 静 江

バン格拉デシュについては昔、東パキスタンと呼ばれていたことは知っていたが、他はまったく知識がなかった。今回、BESSの会を通して話を聞いたり、バングラの映画を観る機会を得て、その国の実態をほんの少し知ることができた。また「バン格拉デシュ教育支援の会」でかかわることにもなり、少しでもこの目で確かめたいという気持ちになり、今回の旅行となった。

12月19日、暮れのおしせまった日に出発した。

1日目 夜の8時頃バン格拉デシュのダッカの空港に降りた。空港内は暗い感じがして華やかさがなかった。空港内ひとつ見てもその国の貧しさが何となく伝わってきた。

2日目 Dr.フセインさんの病院を訪ねた。その病院はアイチホスピタルと名付けられており、愛知がいかに医療関係にも支援しているかが理解できる。

その後、日本文化交流会JUABにて日本文化を披露する。私たちのために歓迎の垂れ幕や仮設の舞台を用意していただいた。そこで茶道や日本舞踊をチャリティーの一環として見ていただいた。最後は、参加されたみんなと踊り、和やかな雰囲気であった。参加していただいた方々の慈善金が集まり、そのお金も早速スラムの学校に手渡した。



日本文化の紹介

3日目 いよいよ私たちの目的であるスラム街にある学校へ出かけた。車の中から町の様子を見ることができた。町の中は人・人・人でごったがえし、日本では廃車とされるようなボコボコの



力車、人、車で込み合うバン格拉デシュ

車がひしめくように走りその中を無数の人力車が走っている。

交通ルールも交通道徳も何もない。子供の物売りや年老いた物乞いが目立った。朝だというのにほこりっぽく空気がよどんでいる。道路の両側には、きれいとはいえない無数の商店や露店がたちならんでいた。ほこりっぽさは、車ばかりのせいではなく道路の両側に捨てられてそのままになっているゴミのせいでもあり、環境の悪さがうかがわれる。でも、そんな中、ダッカの人たちはたくましく生活している。

しばらく車は走り、細い路地へと入っていくスラム街である。車から降りて学校まで歩いていくと、子供達が私たちを囲んでついて歩いてくる。

校長のビンドウさんの案内で2つの学校を見学する。一つは中学生・高校生が学んでいる。政府が支援している学校だが教育環境としては足りないものばかりである。もう一つが我々「BESSの会」が支援している学校の「BSDPスクール」である。一歩足を踏み入れ周りを見渡す。これが学校と言えるのだろうかと思ってしまう。トタン



チャンバラ地区のスラム街

で囲った建物が細長く3つ建っていた。屋根は穴が空いており、横トタンも隙間だらけ、校舎の中は屋根の穴と隙間だけの明かりが差し込むだけで暗くて狭い。机も椅子も長い板を通しただけ



BSDP スクールの教室の中。ノート、鉛筆もない子が多い。教科書はもちろんない。はだしの子も多い。

の粗末なもの、その中でぎゅう詰めには子供達が座っている。全員の児童にノート・鉛筆がある訳でなく小さな黒板ひとつで一生懸命勉強していた。でも、こども達の顔は学習が出来るという喜びに満ち溢れていた。教室が少ないので2部制になっているらしい。後半の児童が、隙間から顔を覗かせ次をまっていた。言葉が通じない私は、子供達に「ピース」平和とジェスチャーで呼びかけるとすぐ憶えてくれ、思いきりの笑顔で「ピース」「ピース」と叫んでくれた。

ここ「BSDP」には、幼稚園から小学校5年生まで

280名が学んでいる。国の援助が受けられないため、N G Oの学校でぎりぎりのところで行っている。最低の教育環境である。しかも現実にはきびしく年々学年が進むにつれて就学数は減少している。少しでも大きくなれば、家庭の働き手となり学校に来られなくなるのが実情だそうだ。同じ学年の中でも年の差にちがいはあるのはそういった家庭の事情があるからなのだろう。

いったい子ども達は、どんな所で働いているのだろうか。弟や妹の世話、ゴミあさり、サリー工場、物売り等々様々である。まだ家があれば良い方である。学校に来るまでの間、家もないストリートピープル、ストリートチルドレンが身を寄せ合っている通りを車の中から見た。その悲惨さに唖然とするだけで言葉にすることができなかった。

サリー工場を案内してもらった。子供と大人がペアとなって黙々と細かい作業をしていた。どうして子供が働かなければならないのか頭の中が整理つかない。

4日目 学校に来られない児童の家庭を先生といっしょに訪問させていただいた。

何世帯も小さな部屋で暮らしており、部屋と呼べるような状態でなくこれもショックを受けた。そんなところで食事の支度を懸命にしていた少年の顔が忘れられない。

5日目 修了式に参加させていただいた。これは、学校に行けなかった女子を救うため、ミシンでの技術訓練を行っているところだ。足踏みミシン数台で子供服を縫っていた。

80名の修了者であったが家庭の事情なのか欠席者が目立った。卒業生代表者の涙が辛く、胸が痛くなった。

その後 日本に10年以上滞在していたことがあるモノ



同じ学年でも、年齢の高い子も交じって勉強している。



学校に行かないで、サリーの工場で働いている。



修了生の涙ながらのスピーチ



小学校を卒業できなかった女子たちなど、ミシンの技術の訓練を受けている。

さん宅で3日間お世話になった。その間、バングラの結婚式にサリーを着て出席し、貴重な体験をさせていただいた。また、バングラの国全体が抱えている問題についても熱く語ってくれた。貧富の差・教育・女性の社会進出・交通・衛生・医療・薬物・性の問題・モラルや道徳心の低下等々きりが無い。

人口1億4千万人・国土は日本の3分の1、世界一位の人口密度である。でも、バングラデシュを思い、自国のために活動している人達がいることも確かだ。

日本とはあまりにもちがいすぎる国を肌で感じた。安穏な生活の中においては得ることのできない貴重な体験であった。女性の自立支援をすることがその子供の教育を支えることだと考え、少しであるが遠い国から出来るだけの協力をしたい。



バングラデシュの花嫁・花婿

活動報告 (2009年8月18日～2010年3月3日)

2009年

- 8月18日(火) 第1回役員会 「BESS」の設立 規約の作成
江南国際フェスティバル参加準備
- 23日(日) 江南国際フェスティバル参加
民芸品販売 会員の募集 宣伝
- 9月10日(木) 第2回役員会 規約の作成 資料作り
今後の活動計画
- 10月19日(月) ベンガルカレー作り・試食会(8名参加)
第3回役員会 今後の活動計画
- 11月12日(木) 試作品の作成(腕カバー)
第4回役員会 スタディツアー打ち合わせ
- 11月22日(日) 江南市健康フェスティバル参加
チャイのサービス、バングラデシュ紹介紙芝居
- 21日(土) バングラデシュの映画「あり地獄のような街」鑑賞
- 12月7日(月) 第5回役員会 スタディツアー準備
- 12月19日(土)～28日(月) バングラデシュスタディツアー(森崎、佐竹)

2010年

- 1月6日(水) 第6回役員会 スタディツアー反省
民芸品・写真の整理
- 2月1日(月) 第7回役員会 スタディツアービデオ鑑賞
ニュースレター構想と分担
2010年活動計画
- 13日(土) 「バングラデシュの未来」講演会に参加(名古屋国際センター)
- 3月3日(水) 第8回役員会 ニュースレター原稿の校正
フリーマーケット(3月28日)参加準備

大口町上小口にあるケー・エイチ・ケー工場でフリーマーケットがあり賑わっています。みなさんも是非遊びに来てください。(11:00～15:00)

リサイクルの衣類、使っていない食器、雑貨等(バザー用)や、使った文具でもまだ使える鉛筆、消しゴム、定規、色鉛筆、絵の具、楽器等(支援用)を求めています。あなたの可能な内容で少しでもご協力いただけますと助かります。

会員になって頂いた方 (2009年8月～2010年3月) (敬称略)

桐生望 (安城市)、 松浦智恵子 (犬山市)、 大池小夜子 (江南市)
森崎芳子 (江南市)、 佐竹静江 (大口町)、 山田元子 (岩倉市)
小出綾子 (名古屋市) 近藤晴美 (扶桑町)、 クリストファー・モア (一宮市)
向山ゆき (石川県金沢市)、 土川照恵 (大口町)、 中山幸代 (江南市)
藤田佑美子 (江南市)、 斉木素子 (江南市)、 大森由美子 (大口町)
水野恵里子 (江南市)、 伊藤千景 (岐阜市)、 森崎敏男 (江南市)
志村やえこ (江南市)、 伊藤満里子 (名古屋市)、 杉本陽子 (岡崎市)

ご寄付、ご支援頂いた方 (2009年8月～2010年3月) (敬称略)

8月 藤川元子 (名古屋市)、 家田一枝 (名古屋市)、 小林陽子 (名古屋市)
鎌田さき子 (名古屋市)、 可児千賀子 (名古屋市)、 松井佳子 (名古屋市)
佐藤静代 (江南市)、 大森昭子 (江南市)、 川口幸子 (江南市)

10月 花の木会員

11月 山田家 (岩倉市)、 早瀬裕子 (江南市)、 川口幸子 (江南市)

12月 伊藤道広・弘子 (清州市)、 兼松三欣・典子 (江南市)

1月 高橋月子・康幸・信仁・賢司 (名古屋市)、 太田静子 (名古屋市)
長縄伸菜 (名古屋市)、 伊藤道広・弘子 (清州市)
久保田真恵子 (扶桑町)、 今川幸子 (江南市)、 河井那智子 (江南市)
佐橋美佐子 (江南市)、 杉村美恵子 (江南市)、 鈴木はる子 (江南市)
前塚節子 (江南市)、 長谷川登志子 (江南市)、 三ツ口和子 (江南市)

2月 クロスカル (春日井市)、 パン教室一同 (扶桑町)

3月 佐竹静江 (大口町)、 山田元子 (岩倉市)、 森崎芳子 (江南市)

BSDP スクール 2010年、生徒数

学 年	人 数
幼稚園	45人
1年生	101人
2年生	60人
3年生	33人
4年生	47人
5年生	45人
合 計	331人

総会のお知らせ (予定)

H22年8月28日 (土)
場所：布袋ふれあい会館
14:00～ 総会
写真展・ビデオ上映なども行います。
15:30～ 懇親会 (参加費 500円)
おいしいベンガルカレーやおやつ、
飲み物を用意します。
* 皆様のご参加をお待ちしています。
詳しいことは追ってお知らせ致します。



BESS の会を立ち上げた 3 名 (森崎、山田、佐竹)
 江南市健康フェスティバルにて、チャイのサービス
 とチラシの配布 (H21 年 11 月)



寄付していただいた中古の文房
 具を届ける。



バングラデシュの民芸品「ノクシカタ」



縫 製 訓 練 の 修 了 式 (21 年 12 月)

会員の種類 (年会費)	
正会員	6000円
准会員	3000円
	1000円
ボランティア会員	

あ と が き

まだまだ歩き始めたばかりの会ですが、皆様の
 善意を感じながら、ここまで来ました。
 一人一人できることは小さいけれども、このよ
 うな活動の継続が大切であると感じています。
 これからもご協力、ご支援をよろしくお願い致
 します。

問合せ先 〒483-8044 愛知県江南市宮後町中町 79 森崎 芳子
 TEL 0587-54-4303 メール m-hanzu@msd.biglobe.ne.jp